

豊岡市新文化会館整備基本構想（案）について、策定委員から寄せられた意見とそれに対する市の考え方

主な関係部分	委員意見の概要	意見に対する市の考え方
背景	<p>「市民会館・ひぼこホール」二つの建物の老朽化に伴い、新たな文化会館建設の構想についてはやむを得ないと考える。昨春まで「ひぼこホール」の継続使用を強く望む声もあったが、現在は広域行政の時代であり箱物維持費用を思うと「新文化会館基本構想策定」もやむなし、市民が納得できる建物ができればと思う。</p>	<p>人口減少や需要見通し、財政見通し等を考慮しつつ、市民からの意見も参考に基本計画の中で検討いたします。</p>
第1章	<p>市民の意見を反映することは当然であるが、長い年数有効に活用されることが必要。一番の心配は、高齢化と人口減少。豊岡市民会館の建設当時は青少年、婦人も多く、集会施設には青年婦人専用の部屋もあった。当時、青年婦人が文化の盛り上げの一躍を担ってきたが、今は高齢者が地方の文化を支えています。</p> <p>20代、30代のスマホやインターネットの中での文化に興じる若年層の文化離れをどうするかも課題、若者をも奮い立たせるぐらいの魅力ある「新文化会館」であってほしい。</p> <p>20年後・30年後の社会や生活の変化を想定した検討が必要。（長く広く市民に受け入れられるホールとする。）</p> <p>豊岡市文化芸術振興計画（2018年度～2022年度）の深堀をさらにお願したい。この計画は、新文化会館の成功の可否を握ると考えます。</p> <p>市民アンケート以外に他の自治体区域で「豊岡にどのようなホールがあったら、行ってみたいと思いますか？」というヒアリングに興味があります。</p>	<p>人口減少や少子高齢化が進む中でのホール・諸室の規模や構成、運営方法等を含め、豊岡市の文化芸術拠点として相応しい施設となるよう、基本計画の中で検討いたします。</p> <p>また、施設の長寿命化の観点から計画的な改修や対策を行うなど、長期にわたり有効に活用できるよう管理運営したいと考えます。</p> <p>文化芸術振興計画は、2018年度から2022年までの5年間の計画です。2023年度以降の次期計画を策定する際には、基本構想基本計画策定委員会でいただいたご意見や新文化会館に課せられる役割なども考慮しながら、検討したいと考えます。</p> <p>市民の意見をお聞きするのが基本だと考えます。</p>

主な関係部分	委員意見の概要	意見に対する市の考え方
第2章	<p>豊岡市の市民会館は但馬の中心、この市民会館での催しは特に意義有るものとして旧豊岡市の市民及び近隣町民も捉えていた。豊岡市民会館でイベントを行うことがステイタスに思えたものでしたし、時代が変わってもその思いを市民は持ち続けている。基本理念にあるように、多くの市民が気楽に交流できる場であってほしい。</p> <p>文化の拠点施設としての役割が果たせる充実した機能を持たせ、多様な文化に触れることができる「新文化会館」を希望する。「文化に触れるために行きたい」、「どの施設よりも使いたい」、「長い年数の使用と利用に耐えることができる」機能と内容の充実を求めます。</p>	<p>新しい文化会館は、文化芸術創造拠点活動を支える本市の中核施設として位置づけ、「優れた文化芸術の振興や創造」、「市民生活を豊かにする場の提供」、「地域や世代を超えた交流活動の場」として賑わいのあるまちづくりにつなげることをします。</p> <p>基本理念を実現するための5つの役割を実践することにより、本市における総合的な文化環境の充実・強化を図りたいと考えます。</p>
第3章	<p>今後、直面する課題は人口減少。</p> <p>新文化会館ホールの席数について、個人的には600席～800席と考えている。(成人式の参加者数800名弱、その席数確保は当面必要)800席を「600席と200席」若しくは「500席と300席」の2段フロアにできればなお良い。2段フロアに費用がかかるのであれば2階の席数分を可変式の予備席として後方に設置する方法も考えても良い。小ホールを兼ねたりハーサル室の案も有効活用ができるものなら良い。</p> <p>1000席以上必要との意見もあるが、1000席のチケットを完売することは至難の業。企業の招待ショー、市民会館主催のタレントショー、行政の式典等は一定時間多くの観客、参加者が席をうめることがあるが、回数的にも少ない。ホールの席数は、「大は小を兼ねない」、多すぎると集客が困難となり主催者は使用を断念することにもなる。文化の多様化で舞台芸能でのホールへの集客は困難な時代となっている。成人式参加者も20年30年後には大幅に減少する。全てのイベントにおいても参加者は減</p>	<p>今後、基本計画において、建設場所や建物規模・機能、建設費用などについて、具体的な検討を進めることとなります。</p> <p>新しい文化会館の整備にあたっては、いただいたご意見も参考にしながら、安全性、利便性・快適性(ユニバーサルデザイン・バリアフリー)、経済性・効率性、環境共生に配慮しつつ、今後、具体化する建設条件や本市の財政状況を勘案し、基本計画の中で検討いたします。</p>

主な関係部分	委員意見の概要	意見に対する市の考え方
	<p>少することが想定される。寂しい事だが、現実として受け止めなければならない。席の様式は大きく座り心地等を充実させ、席数を圧縮した方が良い。高齢者、障害者等に優しい機能の充実した「新文化会館」であってほしい。</p>	
	<p>但馬の中心豊岡として、1000 席程度を望む。但馬周辺に 1000 席規模の施設がないため、芸術面だけでなく各団体や学校の利用も考えられる。『1000 席』ある事でのアピールも必要（利用人数に応じ、1 階のみ利用できるシステムを導入し、市民が使いやすいように対応できることは重要）</p> <p>維持費等大変なのは理解できるが、夢のある市民会館ができることを願う。</p>	
	<p>豊岡の人口は年々減少すると推計されていることから 1000 席にこだわらず 800 席でも良いと思う。リハーサル室との併用で工夫できないか（リハーサル室にスクリーンを設置するとか）</p> <p>設備として、音響反射板等設備の充実、エレベータ等のバリアフリー化を望む。</p>	
	<p>キャパシティについては、今後も加速する過疎化、少子化を踏まえ、700～800名の収容人数が良い。また、1 階を500名ぐらいにすると市民が利用しやすいホールになると思う。1000人のホールは、稼働率が下がるし、維持費がかさみ運営が大変になってくることが予想される。</p>	
	<p>ホールの構造について、客席の傾斜をしっかりと取り、後部座席でも見やすく音が聴き取りやすい工夫や2階席も、舞台が遠く感じない工夫があると良い。</p>	
	<p>ホール利用者は、子ども連れの親子、高齢者、障害者も含まれるので、食堂や休憩スペースなど充実させる方が良い。(2 時間で終わるイベントなら良いが、半日・1 日単位のものもあることにも考慮)</p>	<p>カフェ・レストランや図書スペースの設置、駐車場の確保、その機能等については、建設条件（敷地等）や周辺環境、財政状況を勘案しながら、基本計画の中で検討いたします。</p>

主な関係部分	委員意見の概要	意見に対する市の考え方
	<p>レストランの設置は、立地場所によりけり。飲み物の自動販売機の設置は必要</p> <p>市民交流室に図書スペースなどを作ると記述があったので、ここはITを駆使したものをお願いしたい。</p> <p>駐車場について、高齢のドライバーが増加していますので、利用しやすい工夫 立体でしたら、あまり狭くない道幅や、駐車スペースも狭いと自信がない人はストレスを感じやすいので（もちろん1台でも多く収容したいのはわかるのですが、駐車場が止めにくいから行かないという意見も意外に多い。）</p> <p>立地について、豊岡は、今後ますます、外部からアーティストをお呼びする機会が増えていくことも予想されますので、宿泊施設については、ホール建設後に何かしら近くにできる可能性はありますので、あまり気にしなくて良いとは思いますが、駅については、やはり近い方が便利かと思えます。</p> <p>多目的ホールの名前は、創造性のある革新的な名前が望ましいと考えます。</p>	<p>立地については、来館者のアクセスとして、最寄り駅等からの距離や歩行環境などを含め、公共交通機関や道路等のアクセス条件等を勘案し、基本計画の中で検討いたします。</p> <p>第4章の5「運営する上での収入方策の検討」の中にも記載していますが、「ネーミングライツ」も含め、別途管理運営計画の中で検討いたします。</p>
第4章	組織体制の考え方に「芸術監督制の検討を含め、」を追加する方が良い。	芸術監督等の専門家の参画は、施設全体の方針を左右するものであり、登用のタイミングや任期制の検討、人件費と事業費の配分等に十分な配慮が必要です。今後、管理運営計画の中で検討いたします。